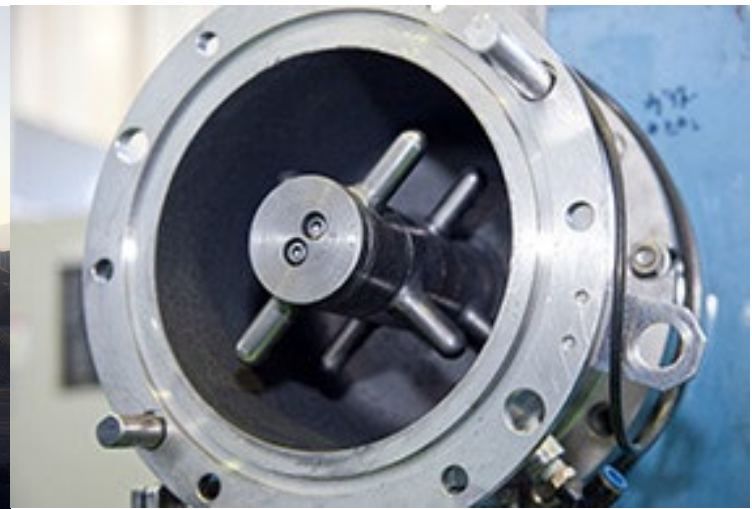


2026年3月期 決算説明資料



2026年5月27日

産業を支える、未来を動かす。

 **日本コークス工業**

証券コード3315：石油・石炭製品

第1部

2026年3月期決算・・・・・・・・・・・・・・ 3P

1. 決算ハイライト
2. セグメント別業績概要 コークス事業
3. セグメント別業績概要 燃料・資源リサイクル事業
4. セグメント別業績概要 総合エンジニアリング事業
5. セグメント別業績概要 その他
6. 連結貸借対照表
7. 連結キャッシュ・フロー計算書

第2部

2027年3月期について・・・・・・・・・・・・・・ 11P

1. 業績予想ハイライト
2. セグメント別業績予想

【参考資料】・・・・・・・・・・・・・・ 14P

- ・原料炭市況（FOB豪州）および中国コークス市況の推移

第1部 2026年3月期決算

1. 決算ハイライト

連結業績概要

(単位：億円)	25/3月期（前期）		26/3月期（当期）		前期比増減	
	金額	売上高利益率	金額	売上高利益率	金額	増減率
売上高	990	—	913	—	▲77	▲7.7%
営業損益	▲86	—	6	0.65%	92	—
経常損益	▲103	—	▲3	—	100	—
当期純損益 ※	▲139	—	▲77	—	62	—

※親会社株主に帰属する当期純損益

【事業環境】

- 当期におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善等による緩やかな回復基調がみられる一方、米国の通商政策や中東情勢の緊迫化がわが国景気を下押しするリスク要因があるなかで推移。

【売上高】

- 連結売上高は、913億8千6百万円（前期比76億5千9百万円減、7.7%減）。コークス事業においては、新鋭2 A炉の本格稼働により販売数量は前期比10万トン増加したものの、市況等の影響により売上高は減収。燃料・資源リサイクル事業においても、顧客の燃料転換トレンドの継続を主因として販売数量が前期比4万5千トン減少したほか、総合エンジニアリング事業においても前期の大口機器納入案件の終了により減収となり、グループ全体として減収。

【営業損益】

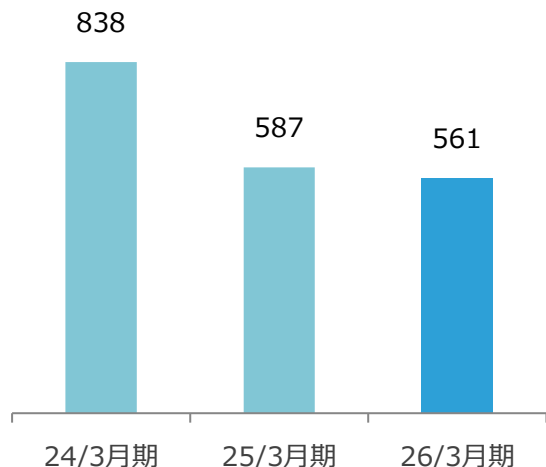
- 連結営業損益は、6億7百万円の営業利益（前期は85億6千2百万円の営業損失）と前期より大幅な改善。コークス事業においては、年末の火災影響を受けながらも、修繕費等の固定費削減および増産効果により営業損失が大きく縮小し、燃料・資源リサイクル事業および総合エンジニアリング事業の安定した収益がグループ全体を下支え。

【経常損益・当期純損益】

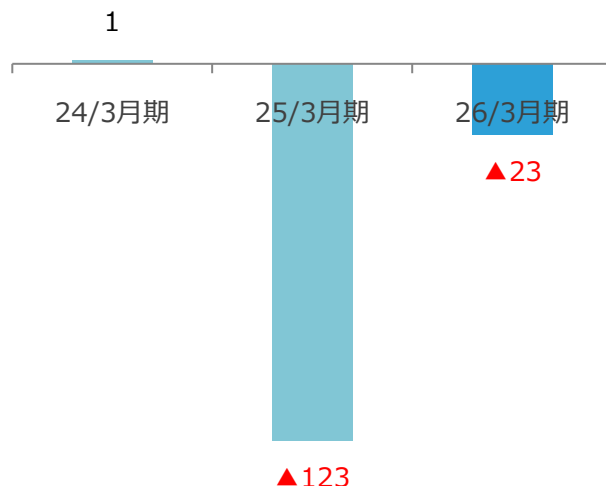
- 連結経常損益は、2億7千6百万円の経常損失（前期は102億6千9百万円の経常損失）となり、損失額は大幅に縮小。営業利益の計上により損益構造は大きく改善したものの、支払利息をはじめ営業外費用が営業外収益を上回ったことから経常損失となり、さらにコークス生産体制最適化等に係る減損損失等、特別損失70億5千7百万円を計上した結果、親会社株主に帰属する当期純損失は76億7千8百万円。

2. セグメント別業績概要 <コークス事業>

売上高 (単位：億円)



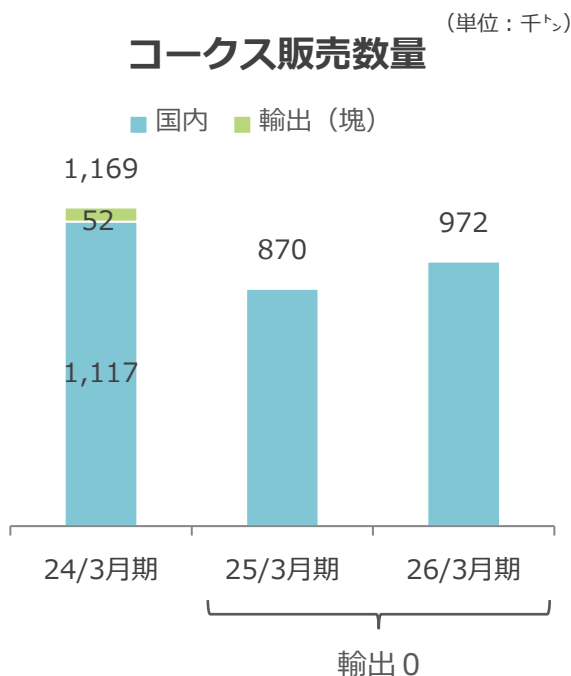
営業損益 (単位：億円)



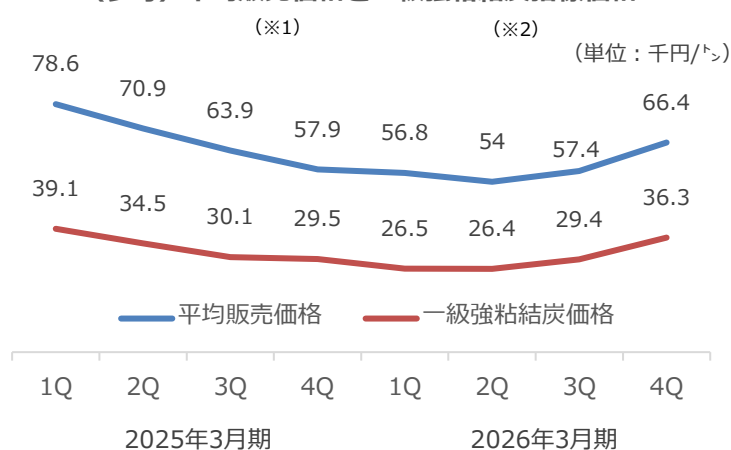
売上高 (前期比▲26億円)

2024年度には老朽炉の影響や火災による生産減があり、2025年度もベルトコンベアの火災があったものの、新鋭2A炉の生産能力向上効果を楽しむことができたことにより、販売数量は前期比10万トン増加の97万2千トン。一方で売上高は市況等の影響により、前期比26億円の減収。

コークス販売数量 (単位：千トン)



(参考) 平均販売価格と一級強粘結炭指標価格

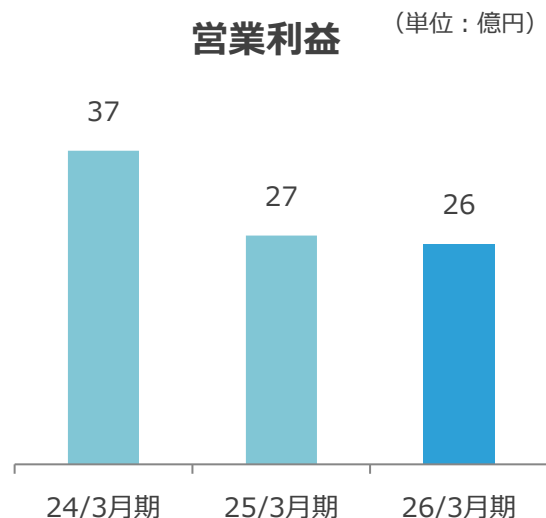
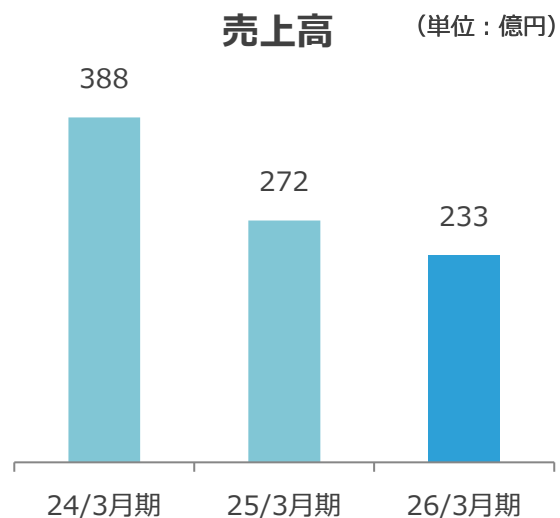


営業損益 (前期比+100億円)

連結営業損益は、年末のベルトコンベア火災の影響を受けながらも、修繕費等の固定費削減および増産によるトン当たり固定費負担の軽減効果により、23億円の営業損失（前期は123億の営業損失）と損失額が大きく縮小。

※1：平均販売価格 = コークス及び副産物の売上 ÷ コークスの販売量
 ※2：一級強粘結炭指標価格 = 四半期毎の一級強粘結炭指標価格の平均値 (為替は毎年度の期中平均値で換算)

3. セグメント別業績概要 <燃料・資源リサイクル事業>



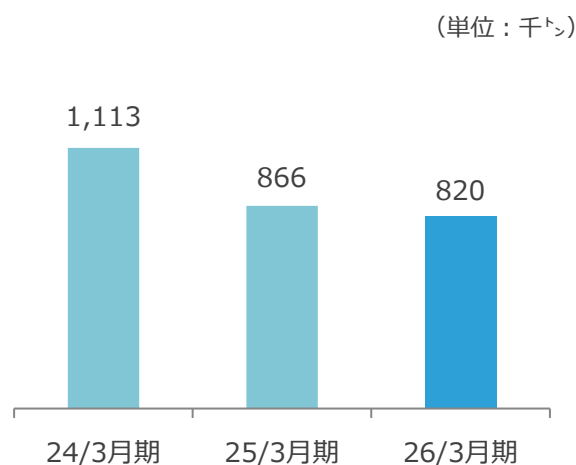
売上高 (前期比▲39億円)

顧客の燃料転換トレンドの継続を主因として販売数量が前期比4万5千トン減少し、前期比39億円の減収。

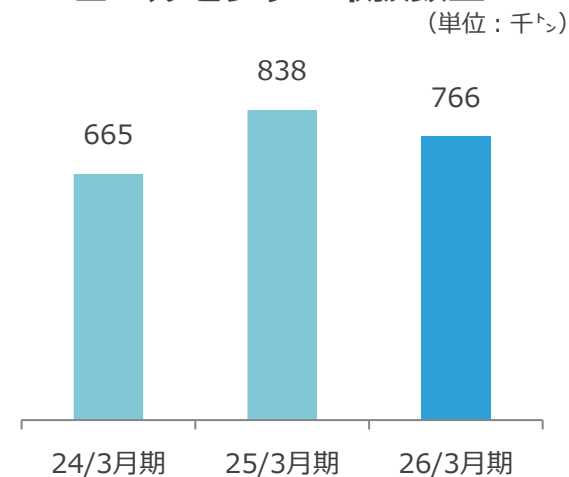
営業利益 (前期比▲1億円)

私有港湾設備やコールセンター等を活用したインフラ対応力を発揮しながらも、減収の影響により営業利益は前期をわずかに下回る。

一般炭及び石油コークス販売数量



コールセンター取扱数量

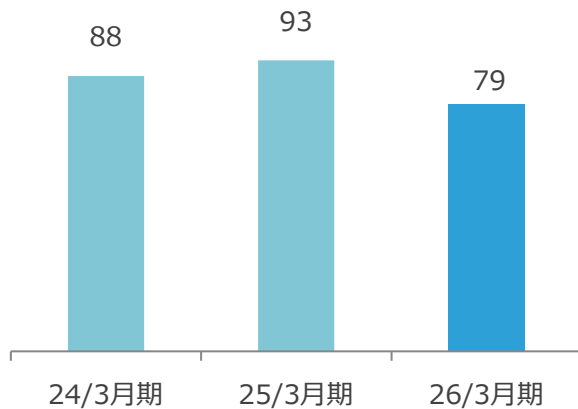


ひびきコールセンター (北九州事業所)

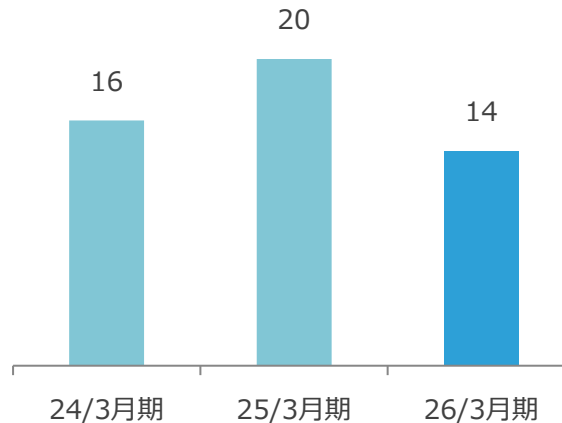
4. セグメント別業績概要 <総合エンジニアリング事業>

(化工機事業・産業機械事業)

売上高 (単位：億円)



営業利益 (単位：億円)



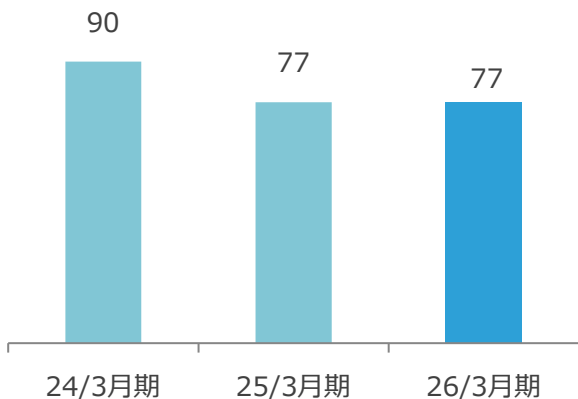
売上高 (前期比▲14億円)

営業利益 (前期比▲6億円)

化工機事業において前期の大口機器納入案件が終了したことが主因となり、前期比14億円の減収。

利益面でも前期比6億円の減益となったが、抹茶製造向け新商品「ティーマイスターミル」の投入など、ニッチ分野における事業展開により、引き続き一定水準の収益を確保。

受注高 (単位：億円)

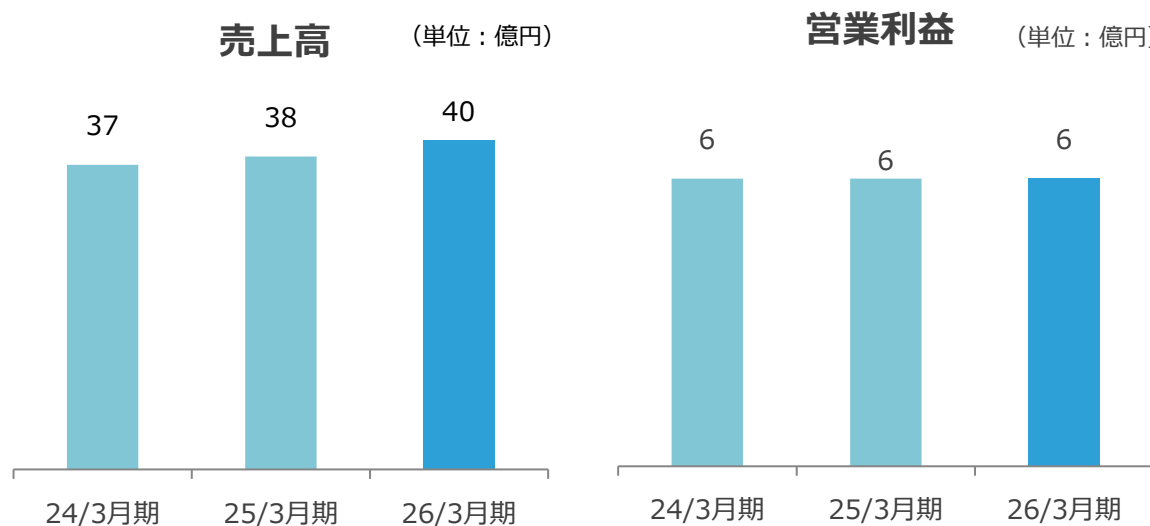


「ティーマイスターミル」イメージ画像

受注高 (前期比+0億円)

化工機事業において見込んでいた大口案件の期ズレ影響等により、受注高は前期比と同水準で推移。

5. セグメント別業績概要 <その他> (港湾運送事業・不動産事業他)



売上高 (前期比+2億円)
営業利益 (前期比±0億円)

対前期比で増収。利益は前期並みの水準で推移。



三池港物流(株) PKS (バイオマス燃料) 揚陸作業の様子



不動産遊休地でのソーラー発電

6. 連結貸借対照表

(単位：億円)	25/3月期末 (前期)	26/3月期末 (当期)	前期末比 増減		25/3月期末 (前期)	26/3月期末 (当期)	前期末比 増減
流動資産				負債			
現金預金	51	64	13	仕入債務	76	96	20
売上債権	129	98	▲31	借入金（含む社債）	658	673	15
たな卸資産	271	284	13	その他	156	148	▲8
その他	8	7	▲1	負債 計	890	917	※2 27
流動資産 計	459	453	▲6	内 流動負債	(482)	(545)	(63)
固定資産				純資産			
有形固定資産	803	767	▲36	資本金・資本剰余金	87	87	－
その他	44	45	1	利益剰余金等	329	261	▲68
固定資産 計	847	812	▲35	純資産 計	416	348	※3 ▲68
資産 計	1,306	1,265	※1 ▲41	負債・純資産 計	1,306	1,265	▲41
ROE	－	－	－	自己資本比率	31.8%	※4 27.5%	▲4.3%
ROS	－	－	－	D/Eレシオ	1.58倍	※4 1.93倍	

※1：総資産は、2炉団化に伴う不稼働設備の減損・除却による有形固定資産の圧縮等により、前期比41億円の減少。

※2：負債は、仕入債務（支払手形および買掛金）や長期借入金の増加などにより、前期比27億円の増加。

※3：純資産は、2炉団化に伴う減損損失の計上等により利益剰余金が減少し、前期比68億円の減少。

※4：※2※3の結果、自己資本比率は4.3%減の27.5%、D/Eレシオは1.93倍。

7. 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：億円)	25/3月期 (前期)	26/3月期 (当期)
営業活動によるキャッシュ・フロー	▲32	85
税引前当期損益	▲118	▲71
減価償却費	52	60
減損損失	0	44
引当金増減	9	▲4
運転資金増減	43	35
その他	▲18	21
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲167	▲87
設備投資に係る支出	▲160	▲80
資産処分による収入	1	2
その他	▲8	▲9
フリー・キャッシュ・フロー	▲199	▲2
財務活動によるキャッシュ・フロー	188	15
借入金（含む社債）増減	199	15
配当金	▲9	0
その他	▲2	0
現金及び現金同等物の期末残高	51	64

営業活動によるキャッシュ・フロー：85億円

税引前損益はマイナス71億円と依然赤字スタートながら、減価償却費60億円・減損損失44億円というノンキャッシュ項目の加算等により、前年度のマイナス32億円から大幅に改善。

投資活動によるキャッシュ・フロー：▲87億円 フリー・キャッシュ・フロー：▲2億円

設備投資が前年度の160億円から80億円へ半減したことでキャッシュの流出は大きく圧縮されたものの、営業キャッシュフローを上回る投資支出が続き、フリーキャッシュフローは依然▲2億円とマイナス。

第2部 2027年3月期について

1. 業績予想ハイライト

連結業績予想概要

(単位：億円)	26/3月期 (実績)		27/3月期 上半期 (予想)		27/3月期 通期 (予想)		前期比増減 金額
	金額	売上高利益率	金額	売上高利益率	金額	売上高利益率	
売上高	913	—	458	—	1,016	—	103
営業損益	6	0.65%	8	1.7%	36	3.5%	30
経常損益	▲3	—	0	—	20	1.9%	23
当期純損益 ※	▲77	—	▲8	—	5	0.4%	82

※) 親会社株主に帰属する当期純損益

【事業環境】

- 緊迫する中東情勢や米国の通商政策の影響を引き続き注視する必要がある、先行きについては慎重な見方が必要
- コークス生産体制最適化という転換期を迎え、業績回復から安定収益化へ移行する重要なフェーズに差し掛かる

【通期業績予想】

<売上高>

- 健全2炉団体制への移行完了によるコークス事業の生産安定化および各事業での収益拡大施策の推進により、1,016億円（前期比103億円増、11.8%増）を予想

<営業損益>

- コークス事業の固定費削減効果の本格発現による黒字転換を主因として、36億円の営業利益（前期比30億円増）を予想

<経常損益・当期純損益>

- 連結経常損益は20億円の経常利益、親会社株主に帰属する当期純損益は5億円の純利益を予想、損益構造の大幅な改善を見込む

2. セグメント別業績予想

(単位：億円)	26/3月期 (実績)	27/3月期 (業績予想)	前期比増減
コークス事業			
売上高	561	635	74
営業損益	▲23	10	33
営業利益率	-	1.5%	-
燃料・資源リサイクル事業			
売上高	233	243	10
営業損益	26	22	▲4
営業利益率	11.1%	9.0%	▲2.1%
総合エンジニアリング事業			
売上高	79	97	18
営業損益	14	16	2
営業利益率	17.7%	16.4%	▲1.3%
その他			
売上高	40	40	0
営業損益	6	5	▲1
営業利益率	15.0%	12.5%	▲3.2%
全社共通費用	▲17	▲16	1

主要事業の状況（単体）

(単位：千トン)	26/3月期 (実績)	27/3月期 (予想)	前期比増減
コークス			
生産数量	990	996	6
販売数量	970	961	▲9
燃料販売			
販売数量	820	774	▲46
コールセンター取扱量	766	868	102

コークス事業

2炉団への集約による固定費の効率化や生産性向上投資による増産・変動費削減に加え、販売先の多様化・拡大を推進することで、安定収益体質への転換を図る。

売上高635億円、営業利益13億円と黒字回復を見込む。

燃料・資源リサイクル事業

顧客の燃料転換トレンドの継続により、一般炭の販売数量は減少見込みであり、営業利益は22億円（前期比4億円減）を予想。

私有する港湾設備や石炭ヤード・貯炭スペース等、競争優位性の高い自社インフラを最大限に活用するとともに、バイオマス燃料をはじめ新規需要の取り込みや取扱品目の多様化により、収益水準の維持・向上を図る。

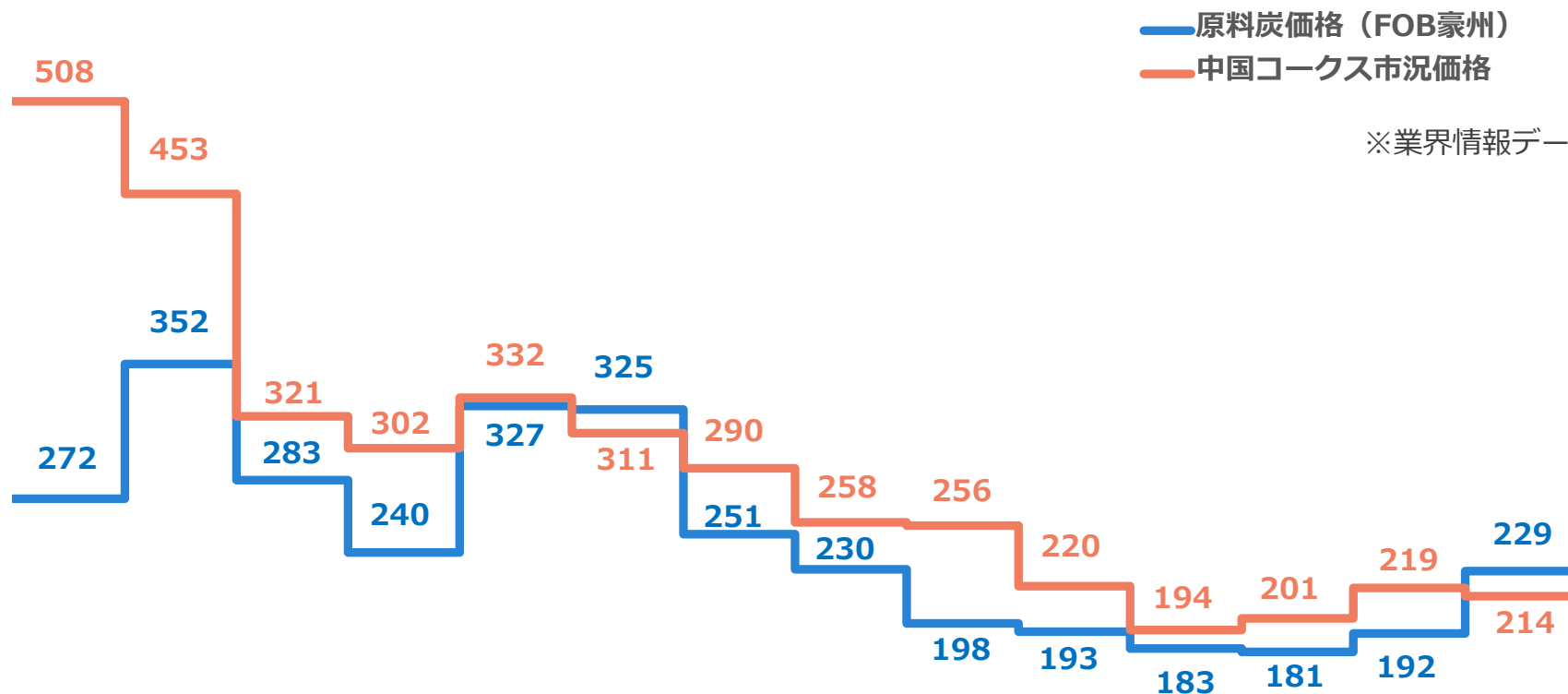
総合エンジニアリング事業

抹茶関連機器が受注好調であることを主要因として収益水準も堅調な推移を見込んでおり、営業利益16億円（前期比2億円増）を予想。ニッチ分野における競争優位性のさらなる強化と新規顧客・新規地域への展開、グループ会社（有明機電工業）との連携強化による内製化推進を通じ、着実な収益確保を目指す。

参考資料

原料炭価格(FOB豪州)および中国コークス市況の推移

(単位：US\$)



※業界情報データより作成

	2021 年度 平均	2022 年度 平均	2023年度				2024年度				2025年度				
			1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	
コークス価格	508	453	321	302	332	311	290	258	256	220	194	201	219	214	
原料炭価格	272	352	283	240	327	325	251	230	198	193	183	181	192	229	
			2023年度平均	コークス	317	2024年度平均			コークス	256	2025年度平均			コークス	207
				原料炭	294				原料炭	218				原料炭	196

本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、本資料に記載された将来の予測等は、公表時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したもので、不確定要素を含んでおります。従いまして、本資料のみに依拠して投資判断されますことはお控えくださいますようお願いいたします。

本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

お問い合わせ先

日本コークス工業

TEL 03-5560-1311

E-mail kouhou@n-coke.com